

米ソニーエレクトロニクスのシニアバイスプレジデント野口不二夫氏にフリージャーナリストの西田宗千佳氏がインタビュー



まず、スタートする それは机上の空論からの 脱出が必要だからだ

電子書籍は2010年、大いに注目を集めていたが、その実態がなかなか見えなかった。が、2010年12月10日、遂にソニーから電子書籍端末、ソニーリーダー「Reader Pocket Edition」「Reader Touch Edition」の2機種が発売された。売れ行きは好調で一部の店舗では品切れ状態だという。発売から12日後、ソニーの電子書籍ビジネスの戦略について、“電子書籍ビジネスの実像”を知るフリージャーナリストの西田宗千佳氏が、日本での電子書籍ビジネス参入を決断した米ソニーエレクトロニクスの野口不二夫シニアバイスプレジデントに聞いた。(聞き手：吉井 勇・本誌編集長、構成：古山智恵・編集部)

野口不二夫

1982年ソニー入社。情報処理技術の研究センターから半導体、同社のデザイン全般を統括するデザインセンターまで広い業務に従事。2004年、国内の音楽配信事業を手掛けるエンターミュージック代表取締役社長に就任。2007年から電子書籍事業に携わる。2008年から現職。

西田宗千佳

1971年福井県生まれ。現場取材にこだわるフリージャーナリスト。得意ジャンルはパソコン、デジタルAV、家電、そしてネットワーク関連など「電気がデータが流れるもの全般」。主に取材記事と個人向け解説記事を担当。



ソニーリーダー「Reader Touch Edition」を手にする米ソニーエレクトロニクスの野口不二夫シニアバイスプレジデント(左)と著書「電子書籍革命の真実」を手にする西田宗千佳氏(右)